

平成 2 5 年 2 月定例会

請 願 ・ 陳 情 参 考 資 料

(平成 2 5 年 2 月 2 5 日)

生 活 環 境 部

受理番号 受理年月日	所 管	件名及び提出者	現 状 と 県 の 取 組 状 況
24年-27 (H24.11.26)	生活環境部	湖山池高塩分化事業の中止 と見直しについて 鳥取市 個人	○湖山池の汽水湖化の取組みについては、環境改善が進まない状況が続く悪臭など生活環境も劣悪な状態となっていたことから、周辺住民の方々や農業者、漁業者等関係者のみなさんから広く意見を聞きながら継続的に話し合いを重ねて方針決定されたものであり、これら住民意見を踏まえつつ、モニタリング結果に注視しながら、湖山池会議で十分協議しながら進めていく。 ○汽水湖化に係る水質、生態系要素等の各種モニタリングを強化し、各分野の学識者で構成する「環境モニタリング委員会(平成24年9月設置)」において、評価や顕在化する課題への対応を検討するとともに、当委員会の助言等に基づき、希少野生動・植物の保護対策などに取り組む。 【H25 予算の概要】 総額 27,820 千円 ◇環境モニタリングの強化・継続(24,333 千円) ・①水生植物群落の分布、②底質、③貝類、④鳥類、⑤昆虫類、⑥動・植物プランクトンの状況を調査し、汽水湖化への取組後の変化状況を把握する。 ・塩分濃度に加えて、溶存酸素(DO)を連続観測し、生物生息環境等を監視する。 ・瞬時に水質(pH、水温、溶存酸素、塩分等)を簡易測定する多項目水質計を湖山池漁協に貸与し、日々刻々と変化する水質モニタリングを一層充実させる。 ◇淡水生物の保全(2,444 千円) ・カラスガイが生息するため池の水草除去、水量管理等を行って、生育環境を保全する。 ・湖山池周辺で、淡水性生物を保全・保護するビオトープを造成するため、適地選定や水量確保策、簡易設計、事業費積算等を実施する。 ◇将来ビジョンの推進等(1,043 千円) ・地域住民等へ汽水湖化の現状等を広く情報発信するため、シンポジウムを開催するほか、湖山池プラザで、こどもを中心として汽水湖化の取組み、変遷等の環境学習等を実施する。 ○下水道整備等の生活排水対策(流入地区75%整備済)や、農地等からの排水対策、浚渫・覆砂等の湖内対策等を水質管理計画に基づき、継続して実施する。 【これまでの経緯】 ○湖山池では、昭和58年の千代川河口替え工事をきっかけに、周辺農地に塩害が生じ、農業と漁業の両立を図るため、淡水化した。水質の悪化が顕著となった。湖山池100人委員会等で様々な議論がなされ、平成17年から塩分導入試験を開始したが、アオコの発生・悪臭やヒシの大量繁殖は改善されず、ヒシ刈りにも多額の経費を費やすなど対処してきた。(H22:4,331万円、H23:4,607万円) ○平成24年1月に農業者の同意等を受け、湖山池会議による高塩分化の方針決定を受け、同年3月に汽水湖化の取組み(2,000~5,000mg/Lの塩分濃度)を開始した。(平成25年2月現在 約4,500mg/L) ○周辺ため池等の調査(H24.11)において、カラスガイ等の淡水貝類の生息を確認し、保護策に着手する。 ○汽水湖化後は、アオコやヒシの大量発生はなく、周辺の自治会・役員アンケート(H24.9)では、95%が「汽水湖化の取組みを継続、または数年間は経過観察すべき」と回答しており、周辺住民の多くは現在の生活環境の改善を歓迎している状況。